

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和5年度 第3回「医療的ケア」委員会 会議録

日 時 令和5年10月19日(木) 13:30~14:30

場 所 乙訓保健所 講堂

出席者 21名

キャンパス、第2乙訓ひまわり園、乙訓ひまわり園地域生活支援センター、向日市社協障がい者地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、乙訓障害者支援事業所連絡協議会、乙訓福祉会、乙訓医師会、京都府乙訓歯科医師会、京都府歯科衛生士会、京都済生会病院、乙訓訪問看護ステーション連絡会、京都府立向日が丘支援学校、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(3)、乙訓保健所保健課、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課(1)、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 2名

乙訓の障害者福祉を進める連絡会(1)、向日市障がい者支援課(1)

事務局 3名

傍聴者 1名

配布資料

- ・次第
- ・医療型短期入所「春風」の見学と説明会 報告
- ・令和5年度第1回医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会
- ・乙訓圏域障がい者施設における歯科検診と口腔ケアの取り組みについて アンケート結果

会議概要

1 人材育成(3号研修の周知)について

- ・11月18日(土)、19日(日) 喀痰吸引等研修

委員長 ・ワーキングチームから報告をお願いしたい。

委員 ・来月の18日(土)、19日(日)で喀痰吸引等研修を行う。今回は非常に厳しい状況である。12月に京都府南部で新しい事業所が登録研修機関になり、南部の方はそちらに行くように思う。今、定員24名で集まっているのが2名、来てくれそうところが1件あり、合計3名の受講希望しかあがっていない。あと最低でも7名は受講していただきたいと思っている。

- ・この後の喀痰吸引等研修プロジェクトで亀岡市等に周知をお願いしたり、乙訓圏域内の事業

所に再度声かけをしていきたい。居宅介護の事業所への周知もしてはどうかというアドバイスをいただいたので、話をしていきたいと思っている。あと1か月、知恵をひねり出して受講希望者を募っていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

・関係備品については保健所に声をかけさせてもらった。こちらで持っていない機材等は京都府にあるため、そちらの借用を京都府と調整していこうと思っている。

事務局 ・人材育成のところで第3号研修の周知だが、10月5日に乙訓の私立幼稚園連盟の園長会があり第3号研修の周知をさせていただいた。内容は昨年度作った第3号研修のチラシを使い、第3号研修の必要性、この圏域でどのような取組を行っているのか、課題も含めて話をさせていただいた。幼稚園では年に2回、幼稚園の先生を対象にした研修をされている。可能であれば、そこでゆっくり丁寧に話をさせていただきたいというお願ひはしてきたので報告させていただく。

副委員長 ・去年の第3号研修に向日市子育て支援課から見学に来ていただいた。感想を聞いたところ、ばらばらに見られたということで全体的にまとまった意見交換ができたなら良かったということだった。今年度に入所された対象者がおられる保育園の先生が1人、第3号研修を受講されるという報告も受けている。

2 医療型短期入所の利用に向けて

・10月3日(火) 13:30~15:00 医療型短期入所「春風」見学と説明会

参考資料：医療型短期入所「春風」の見学と説明会 報告

副委員長 ・相談支援専門員を対象に見学会を行った。13名の相談支援専門員に参加いただいた。

長岡京市から利用にあたっての流れの説明や春風の役割を説明していただいた。

春風からは施設の概要や実際の利用について説明していただいた。

・見学は施設を全て見せていただいた。

・質疑応答では相談員から実際の利用者を想定した質問が多くあがった。送迎についてや家族の見学や付き添いについて等、具体的な質問があがっていた。質問に対して前向きな回答をいただいたが、実際には相談していただき、利用に向けて調整していく流れになる。春風の窓口となる方の紹介もされていた。参加いただいた方に補足や感想等お願ひしたい。

委員 ・前向きに考えてくれているという印象は受けた。医療的ケアが必要な重心の方の支援内容について、日頃から重心の方の支援をしている者にとって標準的なラインと春風が考えている標準的なケアのラインに若干ギャップがあるように思った。それは高齢と障がいという大きな差や違いからくるころだとは思いますが、こういうところでギャップが生じている印象はあった。今後、そこを丁寧に埋めていく作業がお互いに必要だと思った。

委員 ・春風の施設はよく知っているが、廊下や部屋が広い。日中どこかに通所されている方はそこに送迎もできている。日中どこも利用されていない方もいる。重心の方ではないが難病の方で外に出られないこともあり、そのあたりの日中の活動というところでもどのように相談していった

ら良いか、まずは見学等具体的な相談をさせてもらえればと思う。

・高齢者の老人保健施設なので3ヶ月ごとのクールで回っているのも、イメージがまた違うように思う。定期的に利用するには近くて、施設全体が前向きな考えがある。私達がきちんと伝えていき、利用者が困らないように一緒に作ってあげれば良いと思っている。設備のところでは不安な部分もあるので、そこは相談していきたい。

・千春会は向日市にもある。どこの施設でも受け入れられるように、今後につながってあげれば良いと思っている。

委員

・春風は地域のニーズに対して基本的には断らない、応えていくのがスタンスということだったので、その中での今回の医療型短期入所の受入という流れなのだと思う。

その点は一貫した姿勢を持っておられて、心強く思った。

・説明の中で「どこまでのことができるか」という話の中では、家庭でされているケア、措置であれば基本的にはやると言われていたが、そこが大事だと思った。呼吸器の方でも導尿が必要な方であっても、個別に確認しながらやれる方向でとおっしゃっていたが、「できます。」ということの家庭でやっているケアということの捉え方のギャップが結構あるように思った。

そこは個別に擦り合わせが必要で、事前にかなり丁寧なやり取りが必要なように思った。

そこを過度に期待してしまうのは危惧としてあるように思う。

・ここでの数年の協議も踏まえて、ようやくひとつ立ちあがることができ、実際に使うかどうかはともかくとして、まずはそのことについて考えてみるのが大事だと思う。うまく使えれば地域で今の生活のリズム、生活スタイルを大きく変えずに短期入所を使えることは大きなメリットだと思う。できれば千春会も含め、皆一緒に育てていければと思っている。

副委員長・家族間での周知等はどうだろうか。

委員

・すごく期待が持てる。連絡会から親の会を通じて、この「医療的ケア」委員会に出ている。連絡会というのは各施設の家族会の集まりである。この報告は連絡会で報告をさせてもらっている。親達の周知についてはその連絡会において、各家族会の役員の方が知っていると思う。所属している乙訓手をつなぐ親の会では会報の中で春風のモデルケースの報告もさせてもらっている。こういうことが始まっている認識はあると思う。期待もしながら、動向をみているところだと思う。

・個人的には近くで短期入所ができるというのは、ものすごく大きなメリットだと思っている。時間をかけて行くことは検査が必要な場合もあり、本人にも家族にも負担が大きくて、せっかく受け入れてもらってもキャンセルすることになることもある。それが近くにあると思うと、親としてはすごく期待が持てる。40代以上の子を持つ親としては近くにあることのメリットの大きさをすごく感じている。

・中身としては個人個人でやっていることが違うので、擦り合わせはすごく時間かかるように思う。春風の利用に向けて進んでいけば良いなと思っている。

副委員長・擦り合わせの話が出ていたが、新規利用の場合には必ず事前にサービス担当者会議を行うことになっている。毎月モニタリングも可能となっている。

・今後についてはワーキングチームで今の意見等を踏まえて、相談しながら進めていきたい。

3 周知活動（社協祭り）について

・11月5日（日）大山崎町社協祭り ・11月19日（日）向日市社協祭り

委員長 ・ワーキングチームから報告をお願いしたい。

副委員長・今年度、2市1町の社会福祉協議会の社協祭りに参加して周知活動を行っていく。

・11月5日の日曜日、なごみの郷で大山崎町の社協祭りがある。まずはここから参加し、周知活動を行っていく。館内の2階にブースを設けさせてもらい、取り組んでいこうと思う。

当事者の方にも何名か参加してもらい、当事者とのふれ合いの機会というところで、こちらで質問を紙に書いて用意しておき、それを来場者に引いてもらい、その質問に答えてもらう。

シミュレーターを使って喀痰吸引の体験も行ってもらおう。

医療的ケアの方の日常生活の様子が見られるビデオの上映。以上3つことを考えている。

・11月19日の日曜日には向日市福祉会館で向日市社協の社協祭りが行われる。専門ブースの確保ができないが、1階のフロアの壁に掛かったテレビがあり、パソコンもお借りして、医療的ケアの方の日常生活の様子が見られるビデオの上映を考えている。

来場者の休憩スペースに医療的ケアに関するクイズを置き、来場者に自由に各自で答えてもらおうかなと考えている。

・長岡京市の社協祭りはまだ先で来年3月16日土曜日に開催される。活動内容については主催がボランティア連絡会のため、これから連絡会と協議を重ね、参加していこうと思っている。

委員 ・当事者として、今一緒に活動している友人と参加させていただく。友人は地域で24時間介助を使いながら一人暮らしをしている。常時、人工呼吸器、気管切開、胃ろう等も付けている。実際に医療的ケアが必要な方に来てもらい、一般の方からすると医療的ケアはすごく専門的で難しく、扱うことが無理だというイメージから、人工呼吸器があれば普通に暮らせるというメッセージを伝えられるように、Q&Aもざっくばらんにできれば良いなと思っている。

・動画ではJCILで自立生活をされている方の様子や、重心の方が地域の学校に通いたいというハートネットTVで以前放送されたものでメッセージをたくさん伝えられたらと思っている。

副委員長・地域の方がたくさん来られるお祭りなので、しっかり周知ができればと思う。

4 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会について

・11月7日（火）13:30～15:45 第1回フォローアップ交流会

・令和6年2月15日（木）13:30～15:30 第2回フォローアップ交流会

委員長 ・ワーキングチームから報告をお願いしたい。

- 委員
- ・昨年度に引き続き、今年度も2回予定している。
 - ・1回目が11月7日で予定している。新たに修了された方もおられるので、今回から参加される方もいると思う。それも含めて、概ね25名程度と考えている。
 - ・内容としては今回も京都府の医療的ケア児等支援センター「ことのわ」から来ていただき、センターの活動として医療的ケアが必要な方を対象にしたアンケート調査の中間報告をいただきながら、最近の活動の状況等を教えていただく予定である。
 - ・後半は今回も提供していただいた事例に基づいてのディスカッションを通して、地域の課題や支援の方向等について皆で検討し、学び合うことにしている。今回は成人の方で、事例はもういただいている。高齢の方の事例となっている。
 - ・参加者には事前に資料を読み込んでもらい、それぞれ気になったこと、知りたいこと等をピックアップしてきてもらう予定である。自身がこのケースを実際に行う場合どんなことを考えるかも事前にワークシートに書き出してきてもらい、参加していただく方向で準備している。
 - ・2回目は2月15日に実施予定。当初は年2回とも事例検討の予定だったが、アンケートからの意見もあり事例検討ではなく、実際に支援していくうえでの多職種連携をテーマにして、色々な職種の方に来ていただきパネルディスカッションや意見交換等を考えている。今までの交流会の内容も振り返りながら、まとめた形で話ができればと思っている。

副委員長・今年の参加者は16名ということである。

- ・当初と予定が違ってきているが、これで良いだろうか。時間も当初は15時半までの予定だったが、15時45分に変更している。承認いただけるだろうか。
- 意見がないようなので、この内容で進めさせていただきたいと思う。

5 施設口腔ケアについて

参考資料：乙訓圏域障がい者施設における歯科検診と口腔ケアの取り組みについて アンケート結果

副委員長・前回、歯科検診と口腔ケアの取組について、圏域内の障がい児者の事業所に対してアンケート調査を行うことを伝えていた。9月中旬ぐらいにアンケートを配布し、そのアンケート結果が完成したので報告させていただく。

- ・34事業所から回答をいただいた。複数の事業を行っているところについては事業所ごとに回答をお願いしている。
- ・「貴施設の事業名を教えてください」のところでは放課後等デイサービスや児童発達等の障がい児の施設が40%、60%が障がい者の施設に回答いただいている。
- ・「回答者の役職名」については80%強が管理者となっている。
- ・質問1から質問5までが歯科検診についての質問、質問6から質問11までが口腔ケアについての質問になっている。
- ・質問1について、約30%の事業所が実施している。

- ・質問2「いつから実施しているか」で、全事業所が5年以上前から実施しているという回答。
 - ・質問3で歯科検診の必要性について聞いている。半数の事業所が必要であると回答。
 - ・質問4で歯科検診を実施している理由について聞いている。一番多かったのが「定期的な検診を行うことによって、受診につなげることができるから」で70%だった。
 - ・質問5で歯科検診を実施していない理由を聞いている。「体制が取れない」、「学校や家庭で実施している」、「領域外である」、「運営プログラム上困難」、「費用負担」、「場所の確保が難しい」等の理由があがっている。
 - ・質問6の「どなたが口腔ケアを行っているか」では「本人もしくは職員の介助で行っている」という回答が60%を占めている。
 - ・質問7の「事業所内で歯科衛生士による口腔ケアの実施について」を聞いている。約30%の事業所が行っている。
 - ・質問8では「事業所内での歯科衛生士による口腔ケアの必要性について」を聞いている。約60%の事業所が「必要である。もしくは必要性を認識しているができない。」という結果になっている。
 - ・質問9で必要性を感じている事業所の理由を聞いたところ、主な理由としては「利用者の健康維持につながる。」、「職員の新しい知識の向上」、「慣れた歯科衛生士に定期的に見てもらうことで安心して口腔ケアを受けることができる。」、「治療の場でも安心して受けることができる。」等があげられている。
 - ・質問10、11では「必要性を感じているができない。又は必要と思わない。」という理由を聞いている。理由としては「学校や家庭で実施している。」、「職員の確保が難しい。」、「ご自身やご家庭で管理している。」、「営業時間の問題」や「費用の問題」があげられている。
 - ・この結果を受けて地域での歯科検診や施設での口腔ケアの取組について何ができるのかを、次のワーキングチームで検討し、具体的な方策につなげていければと考えている。
- 委員
- ・目に見えて見えてきたものがあり、このアンケートに意義を感じている。
 - ・今、検診をやっているところが26.5%で必要性を感じているところが52.9%ということは52.9%の半分ぐらいは必要性を感じているがやっていない、やれない事情がある。そこをどうするのかということになる。
 - ・口腔ケアに関しては必要性を感じているができないという施設について、どうすればそこに手が伸びるのかを考えることが大事だと思う。例えば費用等の面で今後できなくなるとか、京都府歯科医師会の「障害者等歯科検診・指導事業」を利用していたのが実施施設の入れ替えで訪問対象外となった等、色んな事情で漏れてしまったが必要だと思っているところに、どのように手を差し伸べられるかを考えていく必要がある。

次回 12月21日(木) 13時30分から